

コロナ禍 3年目…堅実対応で乗り切る

令和4年度も折り返し点にかかりました。前年度に続きコロナ禍に揺れた前期の振り返りを、渡辺雄一学部長に寄稿していただきました。



令和4年度前期を振り返る

渡辺 雄一 学部長

新型コロナウイルス蔓延3年目の令和4年度は学生全員のPCR検査実施から始まった。こんな感染予防対策を実施できるのも本学ならではのことだろう。

一時は収束に向かうかと思うほど感染者数が減少したが、7月に第7波に見舞われた。それでも最後の2週間は一部授業を遠隔に切り替えるなどして、何とか定期試験は対面で実施できた。

全般的には感染者数が減少しているときでも、時には学生に感染者が出たり、実習先で感染者が出たために、学外実習が中止となり、急遽スケジュールの見直しや学内実習への切り替えなどせざるを得ない状況は続いた。実習担当の教員は大変ご苦労されたことと思う。コロナ禍3年目となり、これらの対応体制はある程度できてきたのではないかと。しばらくはこのような状況が続くことが想定されるため、学内実習のさらなる充実が教育の質担保のために重要となってくる。

講義室の収容人数制限は継続中ではあるが、前期を通して専門科目の8割くらいは対面で実施できたのではないかと、共通科目は対面と遠隔を組み合わせたハイブリッド形式が主体であった。いずれの場合でも、急に対面授業ができなくなった場合でも、多くの科目で遠隔に切り替えて対応できるようになった。

コロナ禍3年目となって国の方針も変わ

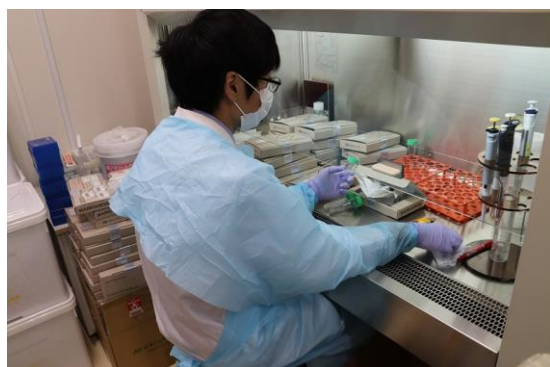
オープンキャンパス積極展開／小中学生に夏休み企画

り、第7波のさなかであっても以前のような厳しい行動規制が打ち出されることはなくなった。そのこともあって、今年度はオープンキャンパスを積極的に展開した。人数制限、午前・午後の2部制、その他感染予防対策はしっかりと行いながらも、できるだけ多くの高校生、保護者に本学の魅力を知っていただきたいと企画、宣伝、実施した。結果としては、3回合わせて合計1,709名の参加があった。コロナ前には行っていたバスでの送迎がなかったことを考えると、手ごたえはあったと感じている。

初めての試みとして8月に小中学生を対象とした夏休みイベント「からだのふしぎ探検in熊本保健科学大学」を実施した。対象を西里小と北部中に絞ったこともあって参加者数は少なかったが大変好評であり、マスクミでも取り上げてもらった。これも将来への種まきとして重要な試みであった。

最後に今年4月に設置された健康・スポーツ教育研究センターについては、すでに何度もニュースレターで取り上げていただいている。水上村との連携協定や高校生アスリート支援などすでに多くの事業を展開しており、スポーツリハビリテーションコースの新設により定員増となったPTはもちろんのことだが、リハ学科全体、さらに本学全体の認知度、ブランド力向上に寄与してくれるものと期待している。

PCR検査をする担当者



オープンキャンパスで採血を体験する高校生

私の癒し

看護学科 末永 芳子准教授



我が家のベランダには30数個のプランターがある。義母が育てたものを、私が引き継いだ。「芽が出て、ふくらんで、花が咲いて、しぼんで…♪♪」の後は、実になっているようだ。翌年には、花びらの色や大きさが変わることもあり、めしべとおしべが違うのだと感心するとともに、ひそかな愉しみである。

また驚きもある。種を撒いていないが、ミニトマトの芽が出て、実が成り多分100個ほど収穫した。スイカの芽が出てきた時も、またびっくり！実を大きくしようと大事に育てたが、やはり10cmでストップ、ほんのりピンク色のスイカの味を頂いた。さらに、カマキリ、ちょうちょう、鳥なども来てくれる。ちょっと辛いのは、青虫、アブラムシ、根切り虫たちである。しかしながら、虫たちも必死で生きていると思うと、「頑張っているね」と声を掛けたい。

十分な世話ができてはいないが、毎日、水をかけているとその成長が嬉しい。「今日もがんばろう」と思わせてくれる。

学生の主体性と成長促すには？

第1回FD研修会

本年度の第1回FD研修会が8月30日（火）、オンライン（Zoom）で開催され、教職員56人が参加しました。

「主体性を育むための学生へのアプローチの仕方」をテーマに、九州工業大学の宮浦崇准教授を講師に招きました。前半は宮浦准教授が「学生の成長を促すためにーポストコロナの教育・大学創りを見据えてー」と題して講演しました。後半は参加者が3人1組になり、「学生の主体性、成長」というテーマで話し合いました。

今回は、Breakout RoomやIdea Boardzといったオンラインツールを使っての対面に近いグループワークができ、参加者からは「今後の研修や授業に役立ちそうだ」という感想が出ていました。また、研修会そのものについては、「学生の主体性や成長といったテーマについて他の教職員の意見を聞いたのは良かった」など、肯定的な感想が相次ぎました。

90分という短い時間でしたが、大学にとって大変重要なテーマである学生の主体性や成長といったテーマについて意見共有するきっかけとなることができたと感じています。

（FD委員長・渡辺雄一）

銀杏アラカルト

◆大学院修士学位論文中間発表会 修士論文の中間発表会が9月8日（木）1300講義室Lで開催されました。医学検査領域の院生3人とリハビリテーション領域の院生3人が自身の研究テーマについて日頃の研究成果を発表し、参加した先生方からの質問や意見に応じました。今回発表に臨んだりリハビリテーション領域の院生は「異なる領域の先生方の視点からご質問やご意見をいただき、大変に貴重な経験となりました。いただいたご指摘をもとに、残りわずかな期間ではありますが研究の見直しを行なってまいります」と引き続き研究に意欲を見せていました。（安部悠介）



質問や意見に応じるリハビリテーション領域の院生

週間行事予定（9月17日～9月22日）	
9 / 17 (土)	学生間交流
9 / 21 (水)	銀杏学園 理事会 大学訪問（熊本国府高校）